

公認パラスポーツ指導者について

障害者スポーツ振興ワーキング



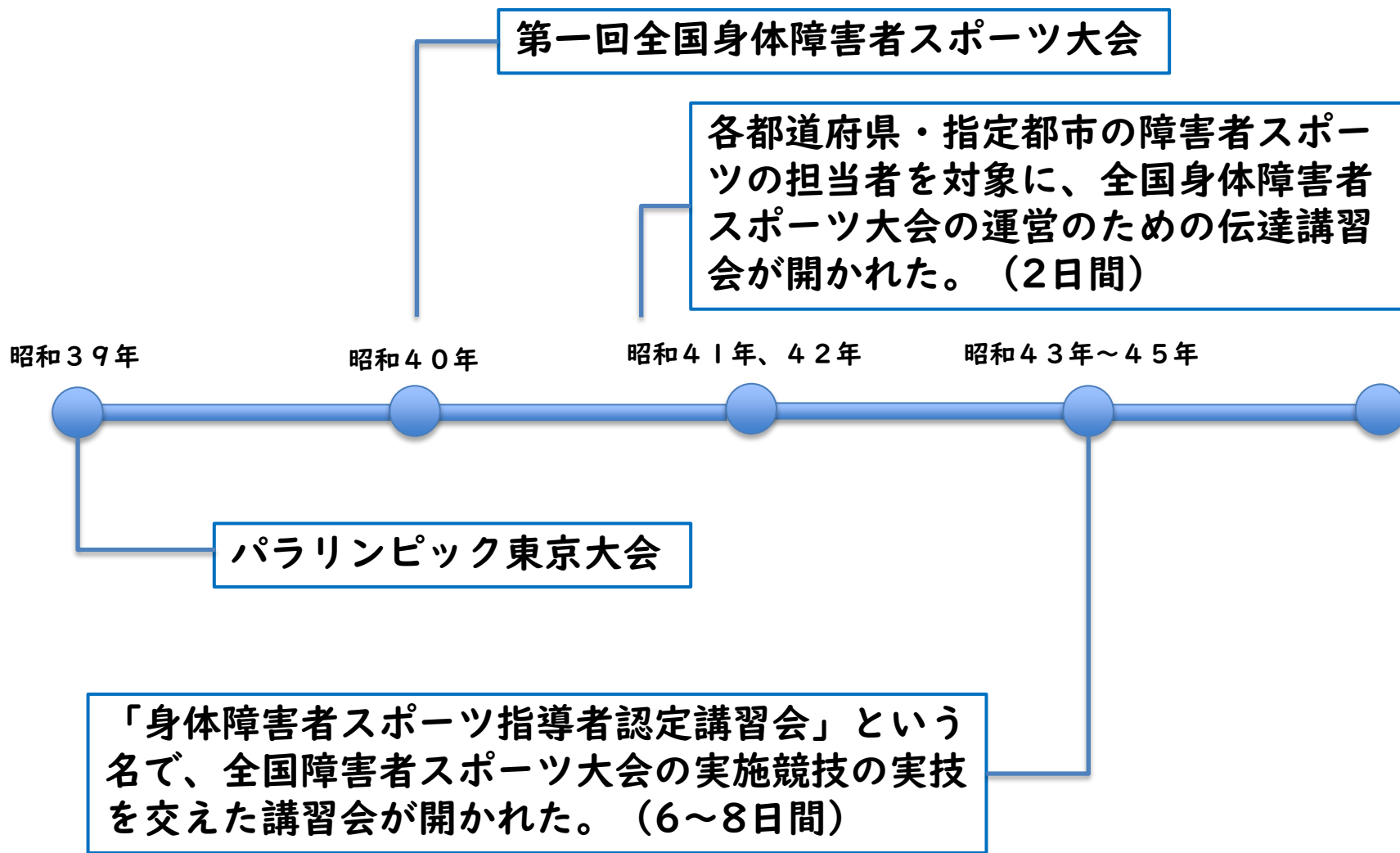
日本パラスポーツ協会
三上真二

本時の内容

1. 養成講習会の変遷
2. JPSA公認資格の概要
3. パラスポーツ指導者協議会および資格取得認定校について
4. 令和4年度公認障がい者スポーツ指導員実態調査結果について

1. 養成講習会の変遷

指導者養成講習会の変遷



指導者養成講習会の変遷

当時は、受講するためには都道府県・市の推薦が必要。
1名のみが受講可能であった。

地方研修会が始まる (S48年～)

日程が6日間になる

日程が12日間になる
(前期6日、後期6日)

昭和46年～48年

昭和49年～53年

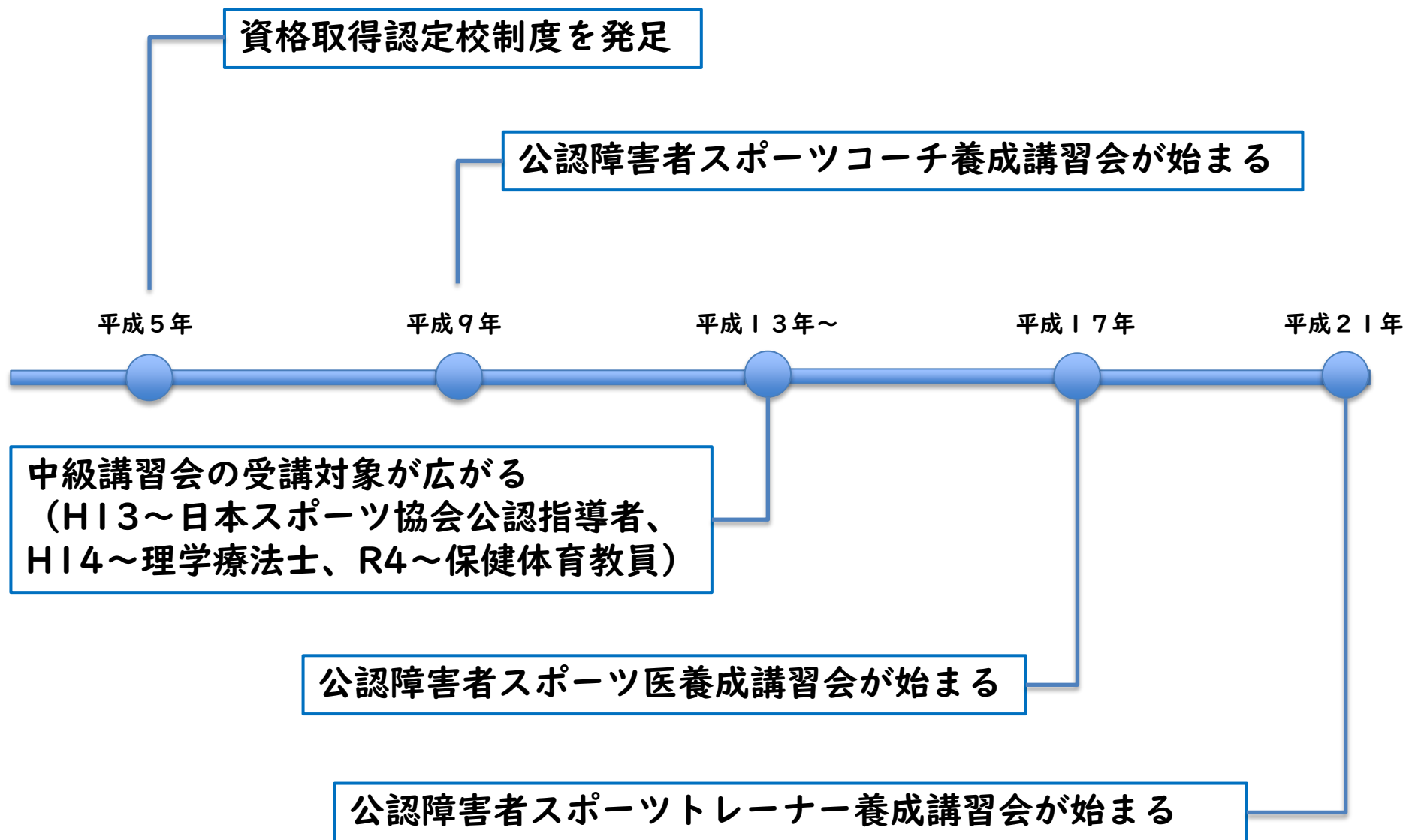
昭和54年～59年

昭和60年

指導者養成講習会として定着。受講者も全国の指導現場の従事者が参加するようになり、直接指導に役立つ内容が増えた (12日間)

「公認身体障害者スポーツ指導者制度を発足。
身体障害者スポーツ指導員 (現 初級)、上級身体障害者スポーツ指導員 (現 中級)、特別上級身体障害者スポーツ指導員 (現 上級)、身体障害者スポーツコーチ (現 スポーツコーチ) となった

指導者養成講習会の変遷



2. JPSA公認資格の概要

日本パラスポーツ協会の現在の資格

1 パラスポーツ指導員

(1)初級パラスポーツ指導員

(2)中級パラスポーツ指導員

- ・初級を取得後2年以上経過し、80時間以上活動した指導員対象
- ・日本スポーツ協会有資格者対象
- ・理学療法士対象
- ・学校教員（保健体育）対象

(3)上級パラスポーツ指導員

2 パラスポーツコーチ

3 パラスポーツ医

4 パラスポーツトレーナー

各養成講習会の時間数

パラスポーツ指導員

(1)初級パラスポーツ指導員 … 21時間以上

(2)中級パラスポーツ指導員

- ・初級指導員対象 … 57時間以上

- ・日本スポーツ協会有資格者対象

- ・理学療法士対象

- ・学校教員（保健体育）対象

… 29.5時間以上

(3)上級パラスポーツ指導員

… 45.5時間

パラスポーツコーチ

… 31.5時間

(検定試験、更新要件あり)

パラスポーツ医

… 19.5時間

(検定試験、更新要件あり)

パラスポーツトレーナー

… 32時間

(検定試験、更新要件あり)

指導者の役割

指導員は、初級、中級、上級の3種に分けられており、共通の役割として、障がいやパラスポーツに関する基礎的（初級）、専門的（中級、上級）な知識や障がい者を支援、指導するための基本的な技術を有し、地域の障がい者を運動やスポーツに導くことが求められています。

資格名	求められる活動	地域での役割	登数
初級パラ スポーツ指導員 ★スポーツの楽しさ、 きっかけづくりを支援	プレーヤーに運動やスポーツの楽しさ、基本的な運動の仕方やその意義や価値を伝える。地域の大会等の行事や指導者組織の事業にも積極的に参加。	地域のパラスポーツ振興を支える役割を担う。	21,692 (80.7%)
中級パラ スポーツ指導員 ★地域の運営リーダー ★知識・経験に基づいた指導力	プレーヤーの状況に合わせて指導計画を立て、基本的な技術や練習方法を指導。地域大会等の行事では運営リーダーとして活動（全国障害者スポーツ大会においても役員としての資質を有する）。	地域のパラスポーツ振興の課題を理解し、障がい者がスポーツを行うことの意義や価値を関係諸団体と共有しながら連携し、その解決をめざす役割を担う。	4,332 (16.0%)
上級パラ スポーツ指導員 ★県市のスポーツ振興のリーダー ★企画・運営等のマネジメント力	プレーヤーの競技レベルに合わせて指導計画を立て、専門的な技術や練習方法を指導。地域大会等の行事では企画、運営等のコーディネーターとして中心的な役割で活動（全国障害者スポーツ大会においても中心的な役員としての資質を有する）。	県市のパラスポーツ振興のリーダーとして課題を理解し、障がい者がスポーツを行うことの意義や価値を広く社会にも伝えるとともに、関係諸団体と積極的に連携を図り、その解決に向けた取り組みを行う役割を担う。	900 (3.3%)

計 26,924名(2023.12.21)現在

指導者の役割

資格名	求められる役割	登録数
<p>パラスポーツコーチ</p> <p>★専門的かつ高度な技術を有する指導力、マネジメント力を発揮</p>	<p>パラリンピック等の国際大会で活躍する競技者に対して、専門的な指導ができる高度な技術を有し、競技団体や都道府県の障がい者スポーツ協会等と連携して障がいのある競技者の育成、強化を実践する。</p> <p>また、パラリンピック等におけるメダル獲得に向けた戦略等のマネジメントを行う役割を担う。</p>	242
<p>パラスポーツ医</p> <p>★様々な疾患、障がいに対応し、健康維持、増進、競技力向上を医学的に支援</p>	<p>障がい者のスポーツ・レクリエーション活動において、様々な疾患や障がいに対応し、多くの障がい者が安全にスポーツに取り組むための効果的な医学的サポートを行い、また、関係団体と連携して障がい者のスポーツ実施における健康維持、増進、競技力の向上を医学的な視点から推進する役割を担う。</p>	617
<p>パラスポーツトレーナー</p> <p>★様々な障がいに対応し、健康や安全管理、トレーニング指導等、競技力の維持・向上を支援</p>	<p>スポーツトレーナーとして、質の高い知識・技能、障がいに関する専門的知識を有し、障がい者の健康管理やスポーツ活動に必要な安全管理、また、アスレティックリハビリテーションやトレーニング、コンディショニング指導等を通じて協会や関係団体と連携して競技力の維持・向上を支援する役割を担う。</p>	242

計 1,076名 (2023.12.21) 現在

求められるパラスポーツ指導者像

① 思考	スポーツを愛し、その意義と価値を自覚するとともに、スポーツ指導の重要性と社会的責任を理解し、スポーツとプレイヤーの未来に責任を持つ人
② 態度・行動 対自分	そのために常に自身を振り返りながら学び続け、プレイヤーとともに成長できる人
③ 態度・行動 対他者	いかなる暴力もハラスメントも行使・容認せず、プレイヤーの権利や尊厳、人格を尊重し公平に接することができる人
④ 態度・行動 対社会	地域の行政、スポーツ、福祉、教育関係者などと連携、協働し、パラスポーツの振興を図ることができる人
⑤ 知識・技能	プレイヤーの自立、パフォーマンスの向上、人間的成長のために、障がいやパラスポーツに関する専門的な知識や技術、経験を持ち、プレイヤーズ・ファーストの目線でコミュニケーションを図り、長期的な視点で支援できる人

求められるパラスポーツ指導者像

前のページの⑤を考えるにあたり、障がいのある方へのスポーツ導入・指導する際の配慮点

- 1) 医学的な障がい特性についての理解（安全管理を含む）
- 2) 障がいの発症時期（先天性、後天性）、発症要因をふまえた指導者としての対応
- 3) 心理的、社会的背景からの障がい者の理解
- 4) 発育・発達過程における運動経験の把握
（健常者と比べ、運動経験や身体を動かし楽しさを体感する機会やスポーツの成功体験が少ない）等々
- 5) 障がい特性に応じた指導法の模索、工夫
- 6) クラス分けや特有のルールを理解

3. パラスポーツ協議会について

パラスポーツ指導者協議会の活動

この協議会は、パラスポーツ指導者の指導技術の向上と指導者相互の連携を図り、パラスポーツの指導活動を促進し、指導体制の確立を図ることを目的とする。

1. 役割：日本パラスポーツ協会公認指導者として地域におけるパラスポーツの普及・啓発を進める者により運営された非営利組織。
2. 協議会数：都道府県・市を含む計51組織が8ブロックに分かれて構成
(①北海道 ②東北 ③関東 ④北信越 ⑤中部東海 ⑥近畿 ⑦中国四国 ⑧九州)
3. 登録：指導員登録の際に記載した「活動登録地」にある協議会へ登録
4. 主な業務：
 - 1) 主催事業
 - ①指導員の資質向上のための研修会の実施
 - ②スポーツ教室・イベント・大会の企画、開催
 - ③広報誌・ホームページ（メールを含む）による情報提供
 - 2) 協力事業
 - ①全国障害者スポーツ大会予選会の運営協力
 - ②全国障害者スポーツ大会のための強化練習会への協力
 - ③全国障害者スポーツ大会への役員派遣協力
 - ④パラスポーツ教室・大会・イベントの運営協力
 - ⑤地域のスポーツ関係団体への支援・協力

3. 資格取得認定校について

資格取得認定校

申請対象：学校教育法に基づく大学・短期大学および専門課程を置く専修学校
資格取得方法：学内で実施される開講科目によって「基準カリキュラム」を修了すること

種類	初級認定校	中級認定校
取得できる資格	初級パラスポーツ指導員	初級パラスポーツ指導員 中級パラスポーツ指導員
修業年数	2年以上	4年以上
基準カリキュラム	・初級カリキュラム (実技・実習を含む計21時間)	・初級カリキュラム (実技・実習を含む計21時間) ・中級カリキュラム (実技・実習を含む計57時間) ・パラスポーツ活動実績80時間以上

【令和5年度認定校数】 198校

初級認定校：158校（大学・短期大学97校、専門学校61校）

中級認定校：40校（大学39校、専門学校1校）

4. 令和4年度公認障がい者スポーツ 指導員実態調査結果について

調査概要

【対象】

25,926名（初級・中級・上級指導員）

【期間】

令和4年8月4日～9月12日

【回答（有効回収数）】

7,979件（郵送：4,518件、Web：3,461件）

有効回収率：30.8%

指導員の活動に関する調査結果

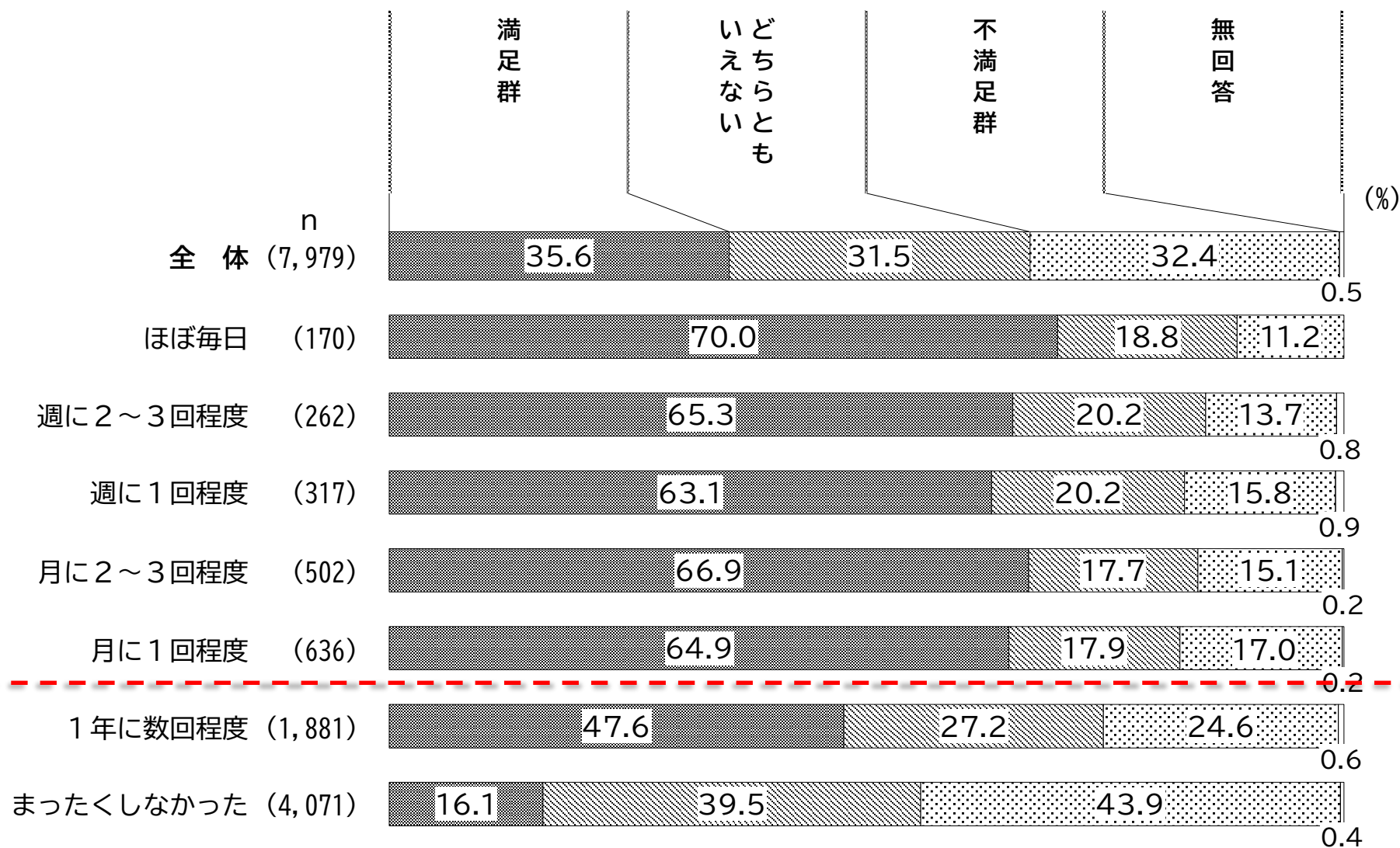
①初級<中級<上級で活動頻度は高く、満足度も高い

- ・上位資格になるにつれ活動頻度は高く、満足度も高い
- ・とくに上級指導員は役割も様々。「キーパーソン」として活躍している

②「年代」や「資格の取得方法・年数」で活動頻度に差がみられる

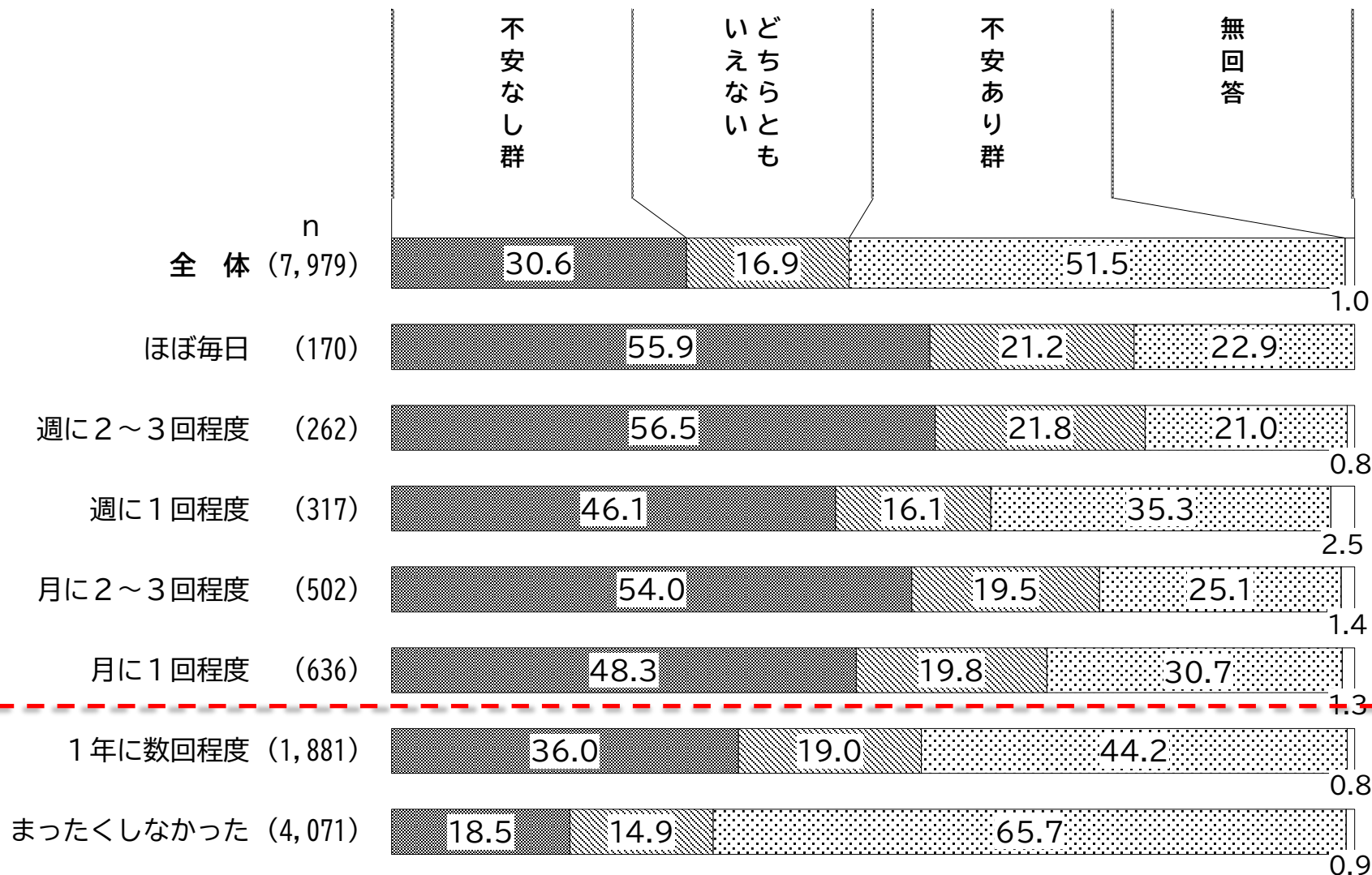
- ・年代が低い指導員の活動頻度が低い
- ・認定校での資格取得者の活動頻度が低い
- ・資格取得後2年未満の活動頻度が低い

活動頻度と満足度の関係性



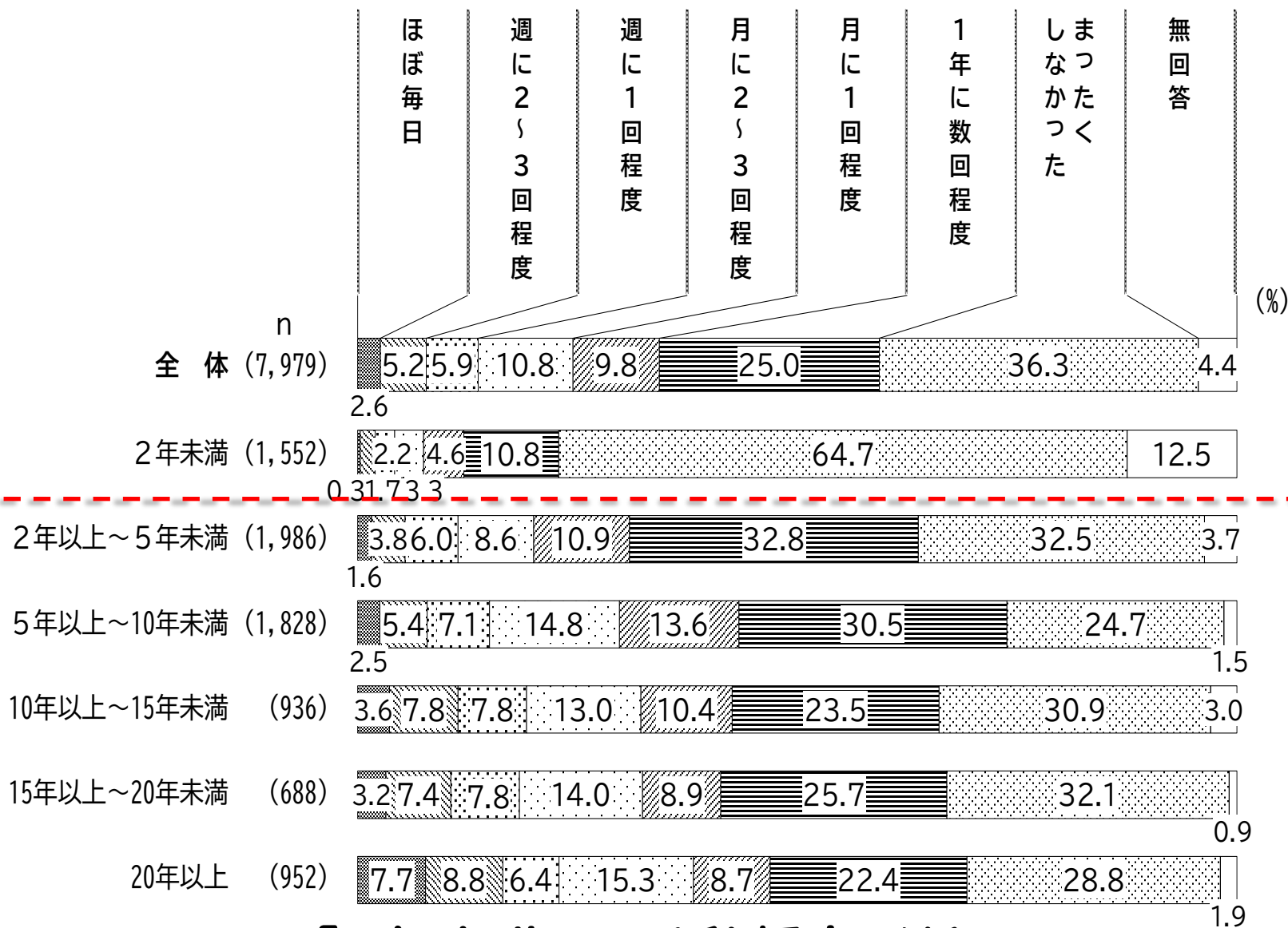
特に「月1回程度」と「1年に数回程度」の間に大きな差

活動頻度と不安の関係性



特に「月に1回程度」と「1年に数回程度」の間に大きな差

資格取得年数と活動頻度の関係性（コロナ前2019年）



「2年未満」の活動頻度が低い

2018年度登録の指導員（初級・中級）の継続率

	地域講習会(認定校除く)				認定校			
	初級		中級		初級		中級	
	登録者数 (人)	2018年度からの 継続率(%)	登録者数 (人)	2018年度からの 継続率(%)	登録者数 (人)	2018年度からの 継続率(%)	登録者数 (人)	2018年度からの 継続率(%)
【2018年度】 新規登録者数	2,320	-	212	-	2,609	-	119	-
【2019年度】 継続者数	1,907	82.2%	203	95.8%	1,269	48.6%	78	65.5%
【2020年度】 継続者数	1,536	66.2%	179	84.4%	753	28.9%	55	46.2%
【2021年度】 継続者数	1,416	61.0%	173	81.6%	582	22.3%	45	37.8%
【2022年度】 継続者数	1,285	55.4%	163	76.9%	465	17.8%	41	34.5%

【初級】

1年後⇒「地域」は約20%が、「認定校」は約50%が登録更新していない
 2年後⇒「地域」は約35%が、「認定校」は約70%が登録更新していない

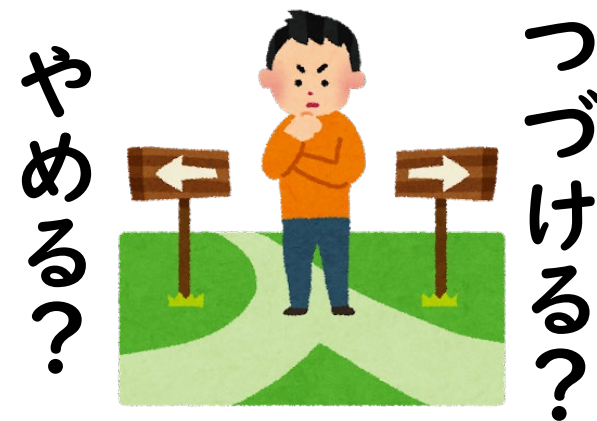
2年間での変化が非常に大きい

資格を取って「2年以内」に活動を!

1年目

2年目

3年目



資格を取った年

登録更新1回目

登録更新2回目

指導者の皆様に活動機会の提供を

指導員活動に満足していない理由（取得後2年未満）

465名が回答

活動ができていない	81.7%
活動に関する情報が少ない	47.5%
指導者としての知識やスキルが身につかない	41.7%
一緒に活動する仲間がいない	24.7%
活動場所が遠い	14.8%
活動費用がかかる	7.1%
指導者同士の人間関係が難しい	3.2%
その他	8.8%

調査結果からみた課題解決の糸口

①公認パラスポーツ指導員の活動機会の創出

指導員が資格取得後2年以内に活動機会を得て、月1回の定期的な活動を継続するために、日本パラスポーツ協会（以下、当協会）が主体となり、都道府県・指定都市のパラスポーツ協会（以下、県協会）や同指導者協議会（以下、県指導協）が協働した事業を展開していく。

②指導員養成講習会・研修会の内容や開催形態の充実

多様な背景を持った受講者に対応できるように、ニーズに応じた養成講習会・研修会を提供する。講習内容を担保しつつ、**オンラインを活用した開催形態を提供**して、受講者にこれまで以上に学びの多い講習会・研修会を開催する。

③指導員のニーズに応じた情報提供の拡充

指導員が抱える不安や課題を解消するために、資格別、ニーズ別に指導者が必要としている研修内容を提供していく。

JPSAの取り組み

①指導者協議会8ブロックの地域特別研修会を助成

【地域特別研修会】

ブロック内の初級パラスポーツ指導員養成講習会を含む若手指導者の育成に関する研修

②指導員資格を取って間もない方対象の研修会を委託事業で実施

【公認初級パラスポーツ指導員スタートアップ研修会】

初級資格取得後2年以内の指導員を対象にした研修会

③指導者養成講習会の一部ICTを活用したオンデマンド研修の導入へ向けた検討

④認定校（教員・学生）や卒業生と地域との連携強化

ご清聴ありがとうございました